KFAW ハノイスタディツアー2016

期間：平成 28 年 9 月 6 日（火）～10 日（土）　　3 泊 5 日

日	行　程
9/6 (火) １日目	福岡空港よりハノイ・ノイバイ空港へ移動 「ベトナム女性博物館見学」**【女性の歴史を知る】** 「アオザイ店視察」**【民族衣装を知る】**
9/7 (水) ２日目	「保育所視察」**【ベトナム保育事情を知る】** 「ハノイ女性連盟訪問」**【ハノイ女性連盟との情報交換 ①】** 「大型ショッピングモール視察」**【ベトナム人の生活を知る】**
9/8 (木) ３日目	「ハノイ市内観光」**【ベトナムの歴史散策】** 「ベトナム人家庭へのお宅訪問」と 「電気カートにて訪問宅周辺の旧市街散策」**【ベトナムの暮らしを知る】** 「ハノイ女性連盟主催の懇親会」**【ハノイ女性連盟との情報交換 ②】**
9/9 (金) ４日目	「TOTO ハノイ工場訪問」**【現地の日本企業の活躍を知る】** 「バッチャン村（伝統陶器生産地）視察」**【ベトナム手工業を知る】** 「水上人形劇鑑賞」**【ベトナムの伝統芸能鑑賞】**
9/10 (土) ５日目	福岡空港着 解散

■　目的：

（公財）アジア女性交流・研究フォーラム（KFAW）は、日本及び他のアジア諸国のジェンダー問題についての理解を促進するため、海外のジェンダー関係機関等との恒常的なネットワークの構築を目指しています。

ハノイ女性連盟とは、平成２５年度から交流を続けており、今回、同連盟の協力を得てハノイ　スタディツアーを実施しました。

今回のツアーでは、政治・文化の中心であるベトナム・ハノイ市を訪問し、女性の視点での視察を目的に、ハノイ女性連盟や保育施設、ベトナムの一般的な家庭などを訪問しました。

■　参加者：

14 名参加	参加者	北九州市女性団体連絡会議 2 名
		北九州市食生活改善推進員協議会 2 名
		北九州市保育士会 2 名、市民参加 2 名
		日本 BPW 連合会北九州クラブ 3 名
		（公財）アジア女性交流・研究フォーラム（KFAW）　3 名

■　ホテル

メイ デ ヴィル オールド クォーター ホテル　（May de Ville Old Quarter Hotel）

■　スケジュール

9 月 6 日（火）：　1 日目

8:30	福岡空港国際線 近畿日本ツーリストカウンター前集合
10:30	VN357 便でハノイ市へ （所要時間 約 4 時間）
13:15	ハノイ・ノイバイ国際空港着
（以下現地時間）	バスでベトナム女性博物館へ移動
14:00-15:00	ベトナム女性博物館見学
16:00	ホテルチェックイン
17:00-18:30	民族衣装（アオザイ）視察
19:00	夕食、夕食後解散

【ベトナム女性博物館】 ～女性の歴史を知る～

ベトナム女性博物館は 1987 年にベトナム女性連盟によって設立された研究、教育、歴史や文化的遺産の展示の為のジェンダー博物館である。

1995 年に一般公開され、2010 年に改築されている。

展示は以下のように、女性の 3 つのステージに分けて展示されている。

①「家庭の中の女性」のコーナー

結婚や出産などの女性の節目やそれぞれの民族ごとの慣習などに関するものが展示されている。

結婚に関するコーナーの説明では、昔は男性が結婚の際に多くのお金を払っていたとのこと。日本の結納に近いものらしい。

結婚式に招待された場合は、昔の地方では、下げ籠にお土産を入れて、その籠を抱えて結婚式に参加していた。しかし、現在では日本と同じように、お祝い金として現金を持っていくことが多いとのこと。

また、現在のベトナムの結婚式では、出席者がお祝い金を贈っても、お祝い返しをする習慣はないという。自分の祝い事のときに、同じようにお祝いしてもらえばよいからだという。葬式に関しても同様で香典返しの風習はないとのこと。

赤ザオ族の婚礼の衣装

ホア族の婚礼の衣装

②「歴史の中の女性」のコーナー

ベトナムの歴史の中で女性が戦う姿や女性の奮闘の様子が展示されている。

19 世紀末以降の反植民地運動からベトナム共産党設立にむけた戦いに女性も参加していたという。

1946 年 10 月 20 日、ベトナム女性連盟を設立し、女性の戦闘への参加も強まった。ゲリラ戦などにも参加し、銃を持って軍のために物資確保や、諜報員の役割を担い、革命家たちを匿い、資金調達を行う女性もいたらしく、男性と同等に戦っていたようである。

展示されていたプロパガンダのポスターなどには女性が銃を持った姿が多く描かれていたのが印象的であった。

戦地最前線で戦う女性たちの写真

プロパガンダ　ポスター

［参考］ベトナムの戦いの歴史
フランスの侵攻～サイゴン開放まで

1847・ 4　フランス軍艦、ダナンを砲撃（フランスの侵略はじまる）
1858・ 9　フランス・スペイン連合艦隊、ダナンに侵攻
1887. 10　フランス領インドシナ連邦成立
1940.　9　日本軍、北部仏印に進駐（日仏共同支配へ）
1941.　5　ホー・チ・ミン、ベトミン（ベトナム独立同盟）を結成
1941.　7　日本軍、南部仏印に進駐
1945.　3　日本軍、仏印軍を武装解除（仏印処理）
1945.　8　日本、ポツダム宣言受諾を公表
1945.　8　ベトミン、総蜂起を指令
1945.　8　八月革命（ハノイで蜂起、以降全国で蜂起が続く）
1945.　9　ホー・チ・ミン、ベトナム民主共和国の独立を宣言
1945.　9　フランス軍、サイゴンを再占領
1946.　3　フランス軍、ハノイに入城
1946. 12（第一次）インドシナ戦争（抗仏戦争）はじまる
1949.　7　フランス連合内に、ベトナム国（バオ・ダイ元首）樹立
1950.　1　中国とソ連、ベトナム民主共和国を承認
1950.　1　アメリカとイギリス、ベトナム国を承認
1954.　7　ジュネーブ協定調印（北緯17度線が軍事境界線に）
1955. 10　ベトナム共和国成立（（ゴ・ディン・ジェム大統領）
1964.　8　米駆逐艦マドックス、北ベトナムの哨戒艇と交戦
（第一次トンキン湾事件）
1965.　2　アメリカ、北爆開始
1975.　4　サイゴン解放（陥落）、ベトナム戦争（抗米戦争）終結
＊「現代ベトナムを知るための60章」（明石書店）年表より抜粋

③「女性のファッション」のコーナー

民族ごとに衣装の模様や刺繍、装飾の異なる様子が展示されていた。

ベトナムの少数民族では、綿は身近な素材で普段着として着用し、天然シルクは祭事衣装や特別な時に着用している。

山岳地に住む少数民族は刺しゅうが盛んで、女性は幼少期から刺繍を学び、民族ごとの伝統的模様を習得している。刺繍のほか、染色や織物で模様が織られた衣装の展示が印象的であった。

【民族衣装（アオザイ店「Clom's Closet」）視察】　～民族衣装を知る～

婚礼衣装

18 世紀後半頃、現在のアオザイの原型となるアオザイ・キンという長い５身衣が現れ、19 世紀にアオザイ・キンは中部・南部の都市から全国に広がり、一般の人々の普段着となった。

1930 年代にフランスの影響を受けた画家がアオザイのそれまでの重厚なデザインを革新した。アオは上、ザイは長い、という意味である。訪問した保育所の保育士の制服も黄色のアオザイであった。

ハノイ女性連盟のスタッフも、イベントなどの外出時はアオザイを着ることが多く、何枚も持っていますと言うように日本の着物と違い、割と身近な伝統衣装である。アオザイは、伝統的なものから、アレンジして外国人にも親しめるようなデザインのものなどもあり、私たちにも取り入れやすいデザインのものも多くあった。

アオザイは自分の体型にあわせて作ることがほとんどだという。

伝統的なアオザイは美しいが、外国人はなかなか着る機会がないので、外国人が普段でも着やすいようにアレンジしてくれるオーダーメイドのアオザイ店へ向かった。

ベトナムは縫製の人件費が安く、日本人にとっては、安価でオーダーメイドの洋服を製作することができる。

訪問した店では、ベトナム人の女性縫製師が、採寸し、たくさんの生地の中から柄や色味を選ぶことができた。

アオザイの上着の丈を普段でも着やすいように膝上くらいまで短くして、２種類の生地でバイカラーとしてアクセントを付け、幅広い着こなしを楽しめるよう、アオザイのアレンジに挑戦した参加者もいた。

アオザイのアレンジといっても、オーダーの為の採寸箇所はアオザイとほぼ同じで、体にフィットするサイズで採寸する必要がある。両脇の切れ込みの位置やアオザイ独特の飾りボタンの色などは実際のアオザイと同じで細かく要望を聞かれる。

ベトナムの女性が実際にアオザイを購入する時も、飾りボタンや生地や刺しゅうなどの細かい自分流のおしゃれを楽しみながらつくるのだという。

9月7日（水）：　2日目

8:20	ホテル出発。保育所へ移動
9:30-10:30	保育所（Sơn Ca public preschool）視察
11:00-12:30	ハノイ女性連盟訪問
13:00-14:30	昼食
15:00-18:00	大型ショッピングモール視察（Vincom Mega Mall Royal City）
19:00	夕食、夕食後解散

【保育所（Sơn Ca public preschool）視察】　～ベトナム保育事情を知る～

大勢の子どもたちと先生方による踊りの歓迎のあと、各クラスを視察した。5.6 歳クラスは中秋のお供え物のお餅づくり。4.5 歳クラスは足の遊び、4 歳以下は廊下で手遊びなどを先生と楽しんでいた。

意見交換会では、トゥイ園長の他に、区の教育部のティン課長代理、地区労働組合長や職員も参加いただいて、施設やベトナムの保育事情の説明を受けた。

この園は 2003 年設立の新しい施設で、先生は 60 名、2 歳から 6 歳までの 670 名の子どもたちが通っている国立の施設である。3 つのグループ（2.3 歳児グループ、3.4 歳児グループ、5.6 歳児グループ）に分かれ、各クラスは子供 70 名に対し、先生 4 名で運営している。

周辺に住むすべての子ども達が入園対象である。両親が共働きでないと入園できないといった制限はない。

保育料は、学費（月謝）が 1 ヶ月 8 万ドン（日本円で 400 円ほど）で、国立のため安い。食事代は 1 日当たり 2 万ドン（日本円で 100 円ほど）を支払う（1 ヶ月にすると約 1 ヶ月 60 万ドン（日本円で 3,000 円ほど）になる。）。

他に管理費として 1 ヶ月 15 万ドン（日本円で 750 円ほど）かかる。延長保育もあり、延長保育は 1 時間につき、日本円で 150 円ほどを支払う。

保育園と紹介されて訪問したが、日本でいう幼稚園のようである。

日本の保育園と同義のベトナムの保育園は、生後 18 ヶ月から 3 歳まで入園でき、親が保育園に入れるか、2 歳からこの園のような施設に入れるか選択できるという。

また、生後 18 ヶ月未満の小さな子供を特別に預ける小規模保育施設もあり、希望者はそこに預けることもできる。

しかし、ベトナムでは乳児はほとんど家族が家で面倒を見るか、シッターが見ているため、保育園に通う割合は少なく、実際にはベトナムのほとんどの子供たちが就学前に通う施設は、この園のような施設である。

ベトナムでは全体の 95%の子どもが、こういった施設を卒園した後、小学校に入る。

自宅から近い場所の保育所に通い、両親が共働きではなくても、3 歳になったらみな入園できるシステムである。

また、ベトナムでは保育士は余るほどいて、しかも若い保育士が多いとのこと。

保育士の資格は、ベトナムでは専門学校に通い資格を取得するが、乳児、幼児のそれぞれの資格があるという。

中秋のお餅やかざりのお供えを作り、中庭で歓迎の踊りをする様子

トゥイ園長、区の教育部のティン課長代理、地区労働組合長や職員との意見交換の様子

【ハノイ女性連盟訪問】　～「ハノイ女性連盟」との情報交換～

（ハノイ女性連盟との交流経緯）

*平成 25 年 11 月：在福岡ベトナム総領事館からの紹介で
ハノイ女性連盟が KFAW に来所。

*平成 26 年 11 月：KFAW がハノイ女性連盟を訪問。

*平成 27 年　9 月：KFAW が企画したスタディーツアーで
18 名の参加者とハノイ女性連盟を訪問。

10 月：「第 26 回アジア女性会議－北九州」に
ハノイ女性連盟副会長のグエン・ティ・
トエット氏をパネリストとして招へい。
ハノイ女性連盟のトエット氏ほか 2 名
と北九州市の女性団体の交流会を開催。

（ハノイ女性連盟側の出席者）

ホア会長、トゥエット副会長、フォン副会長、4 名の部門長

*ホア会長のご挨拶：

北九州市に訪問した際は、日本の女性たちと交流し、日本のことをいろいろ勉強することができた。今回は KFAW の要望に応じて、一般家庭の訪問などのスケジュール調整を行った。家庭を訪問することで、ベトナムの一般的な家庭がどのような生活をしているのかよく分かっていただけると思う。このような交流を続けていくことは、お互いのことがわかり大変嬉しい。

今後も交流を通じて、両国の女性達が発展することを望む。

*情報交換会：
・ハノイには幼稚園が 900 ヶ所ある。
・出産した子どもが生後 12 ヶ月までは、1 時間早く退勤することができる。定時で終業し残業はないし、36 ヶ月までは出張する仕事はしなくてよいという。
・子供の学校への送り迎えは、ほとんどの家庭で祖父母が行っている。
・日本の学童保育にあたるような制度はなく、小学校は 17 時に終わるが、要望あれば事前に登録することで子どもを 19 時まで小学校に預けることができる。その際は延長代金を払わなくてはならない。
・女性の残業は増えてきている。ベトナムでは 1 年で約 200 時間の残業が可能である。
・ベトナムではほとんどの女性が働いており、専業主婦は少ない。夫が子供を迎えに行ったり、家事を分担しているなど、家族で家事や育児を分担している家庭も多い。
・仕事や社会で活躍する女性が増えている。個人経営の会社では女性の社長も多い。

*ハノイ女性連盟内の見学：
　ハノイ女性連盟本部の建物は、女性連盟の事務所としてだけでなく 500 人収容の会議室や本部の隣の棟では教育センターとして女性のための就労支援のセミナーや講座を行っている。
　プールも完備されており、施設は特に女性専用といった訳ではないが、利用者はほとんどが女性であるという。

【大型ショッピングモール視察(Vincom Mega Mall Royal City)】～ベトナム人の生活を知る～

　ビンコム・メガ・モール・ロイヤル・シティというハノイ市で最先端の居住地区を視察した。
　新市街と呼ばれるこの地区には、白く大きな高級マンションの地下 2 階に商業施設がある。将来的には約 800 店舗が入るよう構想されており、まだ空き店舗がかなり目立つが、ベトナム初のスケートリンク、私立の学校、インターナショナルスクールも併設している。
　ビンコムは不動産会社グループであり、ホーチミン市などのベトナム国内の大都市に高級マンションやリゾートなどを手がける巨大グループである。
　この居住地区のマンションは、分譲販売しており 1 ㎡あたり日本円で、約 20 万円で売りに出されているとのこと。
　入居者のほとんどが商売や事業で成功した人で、ベトナムの地方のお金持ちも購入しているという。
　急激な発展に伴って、富裕層も多くなっているようで、最近の傾向は彼らが新市街といわれるこういった場所に居住しているという。日本の六本木ヒルズのようなエリアである。マンションは 24 時間対応のフロントデスク、子供の遊び場、無料の専用駐車場も併設している。
　また、エリア内は一部がまだ建設の途中であったため、建物内では地下にある駐車場の中を歩いて移動しないといけないような場所もあったが、日本の駐車場に比べて、バイクの駐輪エリアが非常に広く、たくさんのバイクが並んでいた。同時に、マンション住人が所有する高級車も多く駐車しており、富裕層が住んでいることが伺えた。
　建物内にある大型スーパーは、買い物しやすいように陳列棚がきれいに整頓されていた。
　一般的に、夕食は自宅で家族一緒に食べることが多いようで、若い世代は、昔ながらの市場で食材を購入するより、こういったスーパーで食材を購入し自宅で調理しているとのことであった。

また、スーパー内は女性客がほとんどであった。

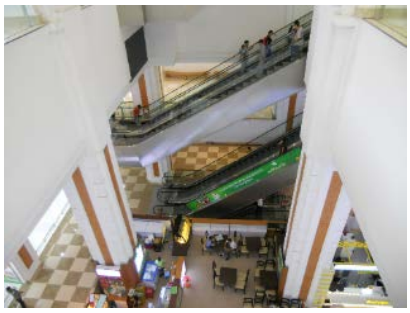
商品は、日本と同じように種類ごとにきれいに陳列されていた。食料品やお菓子は日本製のものも多く、パッケージは日本語の表記のままである。また、子供のおむつコーナーは日本より何倍も広いスペースに色々な種類が並べられていた。

ちなみに通訳ガイドのズイさんは、妻と中学生、保育園の子どもの４人でハノイ市の中心地に暮らしているが、彼の家庭では、朝食と昼食は外食で夜は家でつくるという。朝、市場などで夕食の食材の買い物をして冷蔵庫に入れておくとのこと。多くのベトナム人は朝食と昼食は外食が多く、夕食用として市場やスーパーなどに買出しに行くという。

この地区は、スーパーだけではなく、エリア内にインターナショナルスクールがあるなど教育環境も整っており、高層ビルが建ち並んでいく発展の過程を、実際に視察して感じることが出来た。

居住地区の様子

エリア内のインターナショナルスクール



モール内の様子

9月８日（木）：３日目

8:00	ホテル出発
AM	ハノイ市内観光
11:00	昼食
14:00-15:00	ベトナム人家庭へのお宅訪問
15:30-17:00	ハノイ女性連盟による、旧市街案内
18:00	ハノイ女性連盟による懇親会、懇親会後解散

【ハノイ市内観光】　～ベトナムの歴史散策～

玉山祠（ぎょくさんじ）

文廟（ぶんぴょう）

ホーチミン廟

■　玉山祠（ぎょくさんじ）：

ホアンキエム湖の北側のゴックソン島に建っている 13 世紀に創建された寺院。寺院内には 1968 年にホアンキエム湖で捕獲された、推定 400 歳以上、体長 2m の大亀の剥製が展示されていた。

入口に「筆の塔」があり、字がうまくなるようにお参りする人も多いという。

橋を渡るとお供えを燃やす場所があり、参拝者がお供え用の 100 ドル札を燃やしていた。お供え用の 100 ドル札は、街中（まちなか）で売られているという。

■　文廟（ぶんぴょう）：

ベトナムで最も古い大学が設置されていた場所で、外国人だけでなくベトナム人も学問のご利益があるとして多く訪れる場所。

亀の上に、王朝に仕えるエリート官僚を選抜する、科挙の合格者の名前と出身地が刻まれた碑があり、あやかる為に多くの人がお参りし亀の頭などを触っていたが、現在は触れることができない。

拝殿の中には孔子像がまつられており、ここも多くの合格祈願の人が後を絶たない。

■　ホーチミン廟（ほーちみんびょう）：

当日は、外国要人の視察が予定されていたため拝観できず、敷地の外からの視察となった。

ホーチミンが安置されている、ベトナム人にとってとても大事な場所であり、国内外から多くの観光客が訪れる場所である。廟の周りは軍人が警備している。

ベトナムの首都でありながら、中心部には緑と歴史建造物を残す景観を見学することができた。

外国人観光客だけでなく、多くのベトナム人が地方から観光で訪れているとのことであった。

【ベトナム人家庭へのお宅訪問】　～ベトナムの暮らしを知る①～

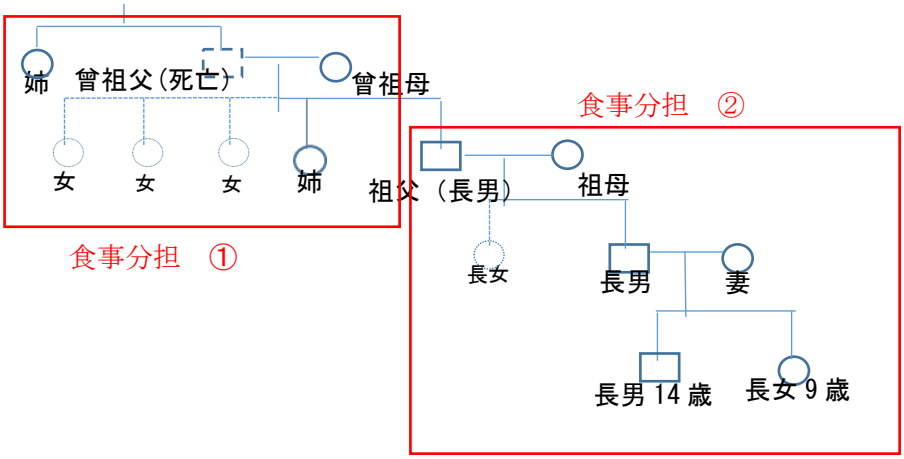
ハノイ女性連盟とその下部組織であるホアンキエム女性連盟と共同で、ベトナム人の暮らしを知るためのお宅訪問を企画実施し、ハノイ市ホアンキエム地区の３家庭を訪問した。

チームＡ

【家族構成】

4 世代、9 人家族、お手伝いさんなし

曾祖母（91 歳）、曾祖母の姉、長男の姉、祖父（67 歳、絵描き　今は年金生活）、祖母（科学技術委員会（公務員）幹部を退職、年金生活）長男（39 歳、電子機器の会社の副社長）長男の妻（軍隊の電話会社職員）男の子（14 歳、中学生）、女の子（9 歳小学生）



【世帯収入】

生活費は祖父母の年金でまかない、祖父母の息子夫婦から生活費を入れてもらっている。

【家事分担】

①曽祖母と娘（姉）、亡き夫の姉のグループ、②長男の祖父母夫婦以下３世代のグループに分かれて料理を作っている。①のグループは娘（姉）、②は祖母が食事を作っている。

（子育て）

９歳の長女の小学校の送り迎えは祖父が行っている。

（食事）

朝食は外食ですましており、かゆ、おこわ、フォー、フランスパンなどを食べている。

昼食は家族で、家で食べる。

夕食は家族みんなで、家で食べている。

（食材購入）
　食材の購入は毎日。
　１階には小さな冷蔵庫、２階には日本の家庭にあるような大きな冷蔵庫があった。

【住居】
　1～3 階（表は靴屋で、靴屋の横の表通り入口から路地を入り、その裏側に住居がある。）
　住居は、当初は国家から借りていたものであるが、その後、購入した。
　１階はきれいに片付けられており、室内には黒檀でできた大きなベットのような板張りがある。壁には、亡き曽祖父の絵や夫が描いたという絵が飾っていた。
　6 代、80 年続く家族で、「大家族を幸せにしましょう」「子どもや孫たちを大切にしましょう」という家訓のようなものを室内に掲示していた。
　2 階の部屋には立派な祭壇や箪笥祭壇があり、案内されるとそこは別世帯のようで、曾祖母の妹の夫がおられた。

【その他】
・砂糖をからめた蓮の実のお菓子とお茶で歓待していただいた。
・１階の棚には、トマトのような果物があったので尋ねると、中秋のための柿をお供えしているということで、その柿をお土産にいただいた。
・伝統的家族を守っているし、これからも守っていきたいと言っていた。

【お別れ】
　熱いおもてなしで、たった１時間の訪問なのに、なぜかずっと昔からの知り合いのようにもてなしていただいた。帰りも、迎えのバスが来て、出発するまで見送っていただいた。

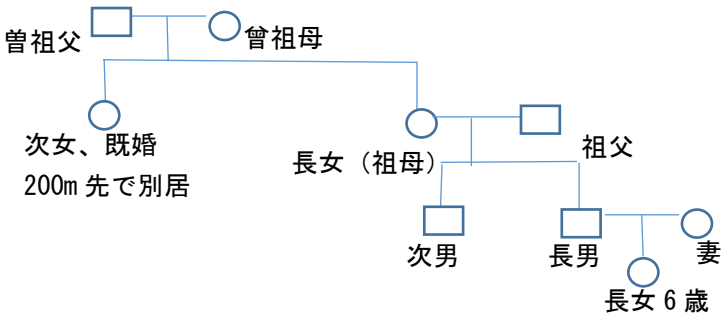
チーム B

【家族構成】

4 世代、8 人家族、お手伝いさんなし

曽祖父（87 歳、元財務省幹部）、曾祖母（78 歳、元貿易省幹部）、祖母（長女 56 歳、隣に住む。ハノイ文化協会）、祖父、長男 33 歳、長男の妻、女の子（長女 6 歳、小学校 1 年生）、次男（21 歳大学 3 年生）

*次女：既婚、ベトナム音楽協会、200m先に別居



【世帯収入】

曽祖父：恩給 700 万ベトナムドン/月、曾祖母：恩給 400 万ベトナムドン/月
祖父：恩給 600 万ベトナムドン/月、祖母：不明（現役で仕事をしている）
長男：不明

【家事分担】

曾祖母：平日の家事を行う。
祖母：休日の食事を作り、食材の買い物を担当。

（子育て）

6 歳の女の子の送迎は、バイクで長男夫婦が行う。

（食事）

朝食に関して：外食することもあるし、家で皆で食事することもある。家ではラーメンやうどんなどの麺を食べる。

（食材購入）
　基本的に買い物は長女の仕事。毎日市場で買うのが基本だが。スーパーで 2.3 日分をまとめて購入し冷蔵庫に入れている。スーパーができて、野菜や加工品もきれいになり、食事を作るのも楽になった。

【定年】
　ベトナムでは男性は 60 歳、女性は 55 歳が定年である

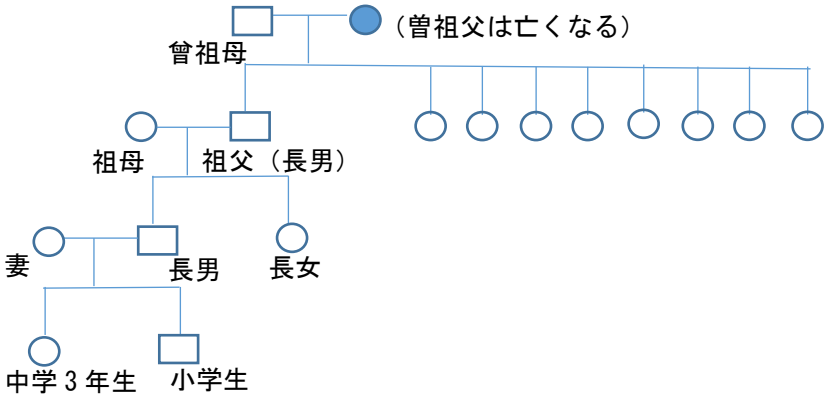
【ベトナムの家族について】
　家族の暮らしなどを拝見する中で「四徳」、「三従」といったベトナムの女性像や家族を知る教訓を学んだ。
・「四徳」とは、ベトナムの女性は良く働くことから、ベトナムの女性のあるべき姿は、
　1.　仕事
　2.　美しさ
　3.　良い言葉
　4.　道徳を守り、良い人であること
であると教えられた。家事や家計を助ける仕事も含めて、ベトナムの女性が家族のために働く姿がみえた。
・「三従」とは、これもベトナムの女性が尊敬し、そして従うべき家族の順番である。
　1.　両親
　2.　主人
　3.　息子（主人亡き後は息子に従う）
　ベトナム人女性は、昔からのこういった教訓を大切にして家庭や社会でうまく生活しているという。

チーム C

【家族構成】

8 人家族　、知り合いに紹介してもらったお手伝いさん 1 人

曽祖母（90 歳、曾祖母の子どもは 9 人で、女子 8 人、男子 1 名）、祖父（長男）（68 歳）、妻（56～60 歳くらい）、長女、長男、長男の妻、女の子（中学校 3 年生、日本語を勉強し、日本に行きたいという）、男の子（小学生）



【家】

持ち家で 5 階建ての一軒家に住む。狭い建坪だが工夫して暮らしているという。

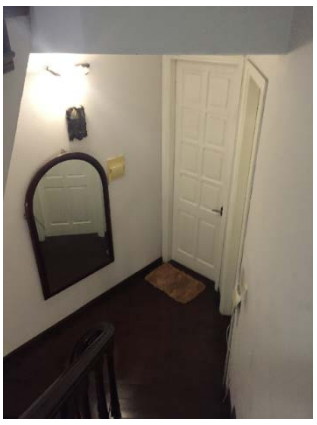
1F は曾祖母がお手伝いさんと一緒に寝ている。

2F は家族が食事をする居間と台所。

3F、4F に各家族の部屋がある。

5F は洗濯物を干すスペースとベランダと先祖を祀る祭壇の部屋がある。

各階への階段はすべて黒檀の螺旋階段で、狭い建坪をうまく生かしていた。建築士である祖父が日本の建築や家屋を実際に見て真似していると言っていた。



家は曽祖父母夫婦が購入し、改装しながら現在は 4 世帯が暮らしている。暮らしているホアンキエム地区は旧市街の一等地で今はとても土地が高騰し、現在では購入することはできないとのこと。

昔、曽祖父母はこの家の近くのドンスアン市場で乾物の商売をしながら子ども 9 人を育て、そしてこの家を持ったという。

ドンスアン市場は食品、日用雑貨、衣料品などを扱うハノイ市最大の市場である。こちらのお宅訪問後電気カートでドンスアン市場前（右写真）を通ったが、駅舎のような凝った造りの外観の大きな市場で、観光客も多く訪れるという。

曾祖母が働いていたドンスアン市場

【仕事】

実質家長であるという祖父は建築士である。日本のゼネコンと一緒に仕事をした経験があり、日本にも何度か行った経験を持つ。日本から持ち帰ったこけしやお酒、薬（グルコサミン）などが大切にガラス棚に陳列されていた。

祖父は仕事で日本に行くうちに日本のものはすばらしいことがわかった。孫たちには日本語や、日本のことを勉強した方が良いと言っている。孫も日本に興味を持っているようだ。

ベトナムの男性の定年は 60 歳で、祖父は 7 年前に定年したが、現在はアルバイトとして仕事を続けている。

妻も現在定年退職している。定年前は、貿易会社で品質管理の仕事をしていたという。

【生計】

現在収入を得ている人：祖父、娘、息子夫婦

【支出】

（食費）各々が出し合って、長男の妻が管理している。
（家族行事）家族の誕生日会などの行事の出費はそれぞれ別会計。
（光熱費）長男夫妻が出している。

【家事分担】

祖母が退職したので、家事全般は祖母が行っている。

食事は家族 8 人分を毎食祖母が作る。たまに長女と一緒に作る事もあるが、ほとんど祖母が中心となって作っている。朝食、夕食は 8 人全員で食べる。

それぞれ好き嫌いはあるが、工夫して家族で同じものを食べるようにしている。

お手伝いさんは、1F で家事と足腰の弱い曾祖母の身の回りの世話をしている。

【子ども】

中学生の女の子は、朝 7：00 から 17：00 まで学校があり、放課後は塾に通っている。日本語を少し学んでおり、将来は日本に行きたいという希望を持っている。

【家族についての考え方】

祖父の話によると、人間にとって大事なものは、人が増えていくことである。財産はいくら増えても価値にならないが、私たちは家族のつながりが一番大事であり、宝であると考える。

家族は宝であると言うように、1F の玄関口や 2F の居間には大きな家族写真が貼られている。この写真は、一昨年の旧正月に曾祖母を中心に親族が大集合した時の写真である。地方で暮らす親戚なども集まり、家の前で写真撮影を行った。

曽祖父は今年亡くなったが、一昨年に撮影したこの写真から、更に 10 人の子ども達が増えている。

更に祖父は、自分の母（曾祖母）や祖先を非常に大事にしているという。自分は長男であるので母や祖先の面倒を看るのは当たり前のことである。自分の息子（長男）も又そのように受け継ぐであろうと話し、家族を大切に考えるベトナム人の考え方を深く学んだ。

続いて祖母の話によると、家事を行うにあたり「食べること」はとても大切なことであるという。家族が皆で居間に集まり、必ず一緒に食事をするようにしている。誰かが帰りが遅くなっても、待って皆で顔を合わせて食べるようにしている。

その他に、月に一回は家族全員で外食に出かけてゆっくりと食事をしているという。

【先祖への供養】

先祖を祀っている祭壇を是非お参りして欲しいと言われた。階段で屋上階の 5F に昇ると、そこには祭壇が置かれた部屋があり、入口から突き当たりには仏様が祭られており、入口から左手には先祖供養の為の祭壇があった。

祭壇は祖先の写真 2 枚と、祖父の亡くなった妹の写真が飾られていた。妹さんは女優のような美しさの女性だったが 27 歳でなくなったという。

裁縫が得意で美人な自慢の妹だったと祖母が丁寧に話してくれた。祭壇でのベトナム式のお参りの仕方なども祖母が教えてくれた。

【ハノイ女性連盟案内による旧市街散策】　～ベトナムの暮らしを知る②～

お宅訪問をしたハノイ市のホアンキエム地区を、ハノイ女性連盟手配の電気カートで散策した。

現在では旧市街と言われ、観光地となったこの場所は、通りごとに「貴金属通り」、「仏具通り」などの店が立ち並ぶ雑多な界隈であるが、通りから狭い間口の入口を通って奥に広がる家がかなりある。

お宅訪問で訪問した家も、間口は狭いが家の中は快適に作られていた。日本で言えば銀座の一等地の路地裏に住むようなイメージである。

電動カートでの散策は、先ほどのお宅訪問でゆっくりと温かい家族の時間を過ごしたのとは間逆の、騒音や喧騒に満ち、生活感にあふれたものであった。

スリルある運転技術で巧みに走る電気カートは、ベトナムの住民となったような感覚を体験することができた。

生活の足であるバイクの目線と同じ視点で街中を見ることでベトナムの生活の雰囲気や臭い、音などを肌で感じることが出来た。なんだか私たちでもバイクを運転できそうだという参加者もいて、貴重な散策となった。

【ハノイ女性連盟による懇親会】

ハノイ女性連盟のトゥエット副会長の招きによる懇親会。

テーブルごとに話題は様々であったが、仕事と家庭（家事）の両立について、夫の家事分担についてなどの話題から、ファッションや食べ物の話題など女性の豊富な話題で話は尽きなかった。

9 月 9 日（金）：4 日目

9:00	ホテル出発
10:00-11:30	TOTO ベトナム工場視察
12：00	昼食
13：00-17：00	バッチャン村訪問
17：00-21：00	自由行動
21：00	ホテル発、ハノイ・ノイバイ空港へ移動
01:20	VN356 便で福岡空港へ

9 月 10 日（土）：5 日目

7：20	福岡空港着
	解散

【TOTO ベトナム工場視察】　～現地の日本企業の活躍を知る～

TOTO ハノイ工場の山崎社長にご案内いただき、TOTO のグループ理念から会社の概要などの説明を受けた後、工場見学を行った。

平均年齢 27 歳、約 2,700 名の従業員を抱える TOTO ハノイ工場は、従業員へのサービスとして、従業員の子どもや、従業員の両親を招いての工場見学を行っている。

働く様子をわが子や家族に見てもらうことで、従業員は自分の仕事に誇りを持つという。

TOTO は、ベトナム国内のシェアを延ばしており、ノイバイ空港のトイレに導入されるなど、広く TOTO の名が知られるようになると、そのブランドの下で働く従業員の意識の向上が見込まれると社長は話す。

また、工場内の従業員一人ひとりにベトナム語で「こんにちは」と積極的に声をかける社長の姿に、「日本式」をさりげなく教え込む姿勢を見ることができた。昔は月に 200～300 人が辞めていたが、今では少なくなっているという。

ハノイ工場ではこうした従業員が工場や製品に理解や愛着を持つよう試みることで離職率も減少しているとのこと。

衛生陶器の製造の品質検査も「日本式」で日本の検査項目に従い、日本と同じ基準で検査している。細かな目で丁寧に検品する姿は、日本の工場と変わらない。

昼食は会社が従業員に支給する為、広い社員食堂が完備されている。2 社の給食業者を入れて味、質を競わせるようにしている。

工場内は男性がほとんどの職場であるが、経理などの事務関係はほとんどが女性である。ベトナムの法律では、産休は 6 ヶ月だが親と同居の家庭も多く、4 ヶ月くらいで出社してくる女性もいる。

平均年齢も 27 歳くらいと若いため常に従業員の 20 名ほどが妊婦である様子。2 人目、3 人目と続けて産む女性も多いという。

なお、TOTO の女性社員の海外派遣率は、現在 3 名ほどで、安全面の問題などでまだまだ海外派遣される女性は少なく、海外派遣の職種も営業などに偏っているとのことであった。

【バッチャン村視察】　～ベトナム伝統手工業を知る～

ハノイ市の郊外に位置するバッチャン村、別名陶器村と呼ばれ、人口約 5,000 人が住む。バッチャン焼きは現在ではベトナムの名物土産の一つともなっているが 600 年以上の歴史を持つ焼き物である。トンボやハスの花の柄が代表的であるが、様々な柄が手書きで描かれている。

型に粘土を流し込んで製作し、乾いたら釉薬をかけるなど、工程は日本の焼き物と近いがすべて手作業で行われていた。男性の職人さんが、壷に細かい絵付けをしていた。また、女性が小物入れに絵付けを行っていた。

窯で焼く作業などの力仕事は男性の力がなくてはならないが、女性は大量の絵付け作業を行うといった、ルーティーンワークに向いているようで、他に女性は陶器の販売などを行っていた。

このバッチャン村に住む人はなにかしら、陶器に関わる仕事を持っているという。

【水上人形劇鑑賞】　～ベトナムの伝統芸能鑑賞～

約 1,000 年前タイビン省の農民達が、農作物の収穫を祝って屋外の水辺を使って演じたのが始まりで、11～15 世紀頃には宮廷の娯楽として鑑賞されていた。コミカルな動き、夫婦喧嘩の様子、踊りなどベトナム人の風習などを織り込んだ人形芝居。

【ハノイの街中の風景】

ハノイスタディツアー2016　報告書（抜粋）
発行　（公財）アジア女性交流・研究フォーラム
〒803-0814　北九州市小倉北区大手町 11-4
TEL：093-583-3434
FAX：093-583-3434
URL：http://www.kfaw.or.jp

平成 29 年 3 月発行

本誌の無断転載・複写を禁ずる